

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600536		
法人名	有限会社ケアサポート・ふる郷		
事業所名	ケアサポート・ワンズホーム 1F		
所在地	帯広市西1条南36丁目1-27		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174600536&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成22年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの尊厳を大切にしながら看取り介護に取り組んでいる。何件かの看取りを行ってきた事により、職員間の報告・連絡・相談が密になり、意識の向上に繋がりが結果的に介護の質の向上が見られる様になった。看取りをする事で、様々な経験となり「看取りをさせて頂いている。」という感謝の気持ちを持てるようになった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

帯広駅から南に車で10分程の所に静かな住宅街、東側には清流の札内川があり、空気の澄みきった所に2階建ての2ユニットのグループホームがある。明るく家庭的な雰囲気の施設で、施設長や職員が利用者に対して気配りし、特に施設長は日々利用者の為に頑張っている。今年度は終末期を迎えた利用者が4人いたので施設長はじめ管理者、職員は大変であった。施設長は常に管理者、職員の資質向上に熱心で利用者に対する思いを大切にしたいケアを実践している。又、利用者とは外出する機会を積極的に設け地域に理解を得る関係を作り、更に利用者、家族、職員、地域の和を大切に日々暮らせるように努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「ゆっくり、いっしょに、たのしく。」をモットーに一人一人に合った声かけや活躍の場を作り実践に繋げている。	事業理念は玄関と事務所に掲示され、職員は常に行動や意識が理念に結びつくように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の新年会・花見等に利用者さんと共に参加し交流をしている。畑で採れた野菜を頂いたり、おすそ分けをして交流している。	常に地域の方とのつながりを保ち、近くの畑で野菜作りを手伝ってもらっている。雪が降ると除雪に来てくれたり、日常的に交流を保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方の来所があり交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員・民生委員・ボランティア・家族・地域包括支援センター・職員の参加により定期的に開催しサービスの向上に繋げている。	運営推進会議は年に6回開催し、町内会役員、ボランティア代表、家族代表、地域包括センター等が出席し、事業所の活動報告等で活発な意見を得てサービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新手続き、スプリンクラー設置等情報の交換に努めている。	市との関わりはあまり無いが制度の運用や福祉事業等について気軽に相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの外出傾向を把握し行動を抑制しないよう支援している。夜間は防犯のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し虐待防止に努めている。		

ケアサポート・ワンズホーム 1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はまだまだ少ないと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に体験をして頂き、疑問点・不安点を尋ね納得のできる対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自由に話し合える関係を築いている。	利用者の思いや意見は日常の会話の中から汲み取っている。毎月便りを出し家族とのコミュニケーションを計り何でも言える関係を築き、サービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて意見や要望を聞く機会を設け反映させている。	毎朝申し送りで経過報告し、月に一回職員会議を開き、日々の話し合いの中で職員の提案や気付きを取り入れている。運営方法など施設にとって大事な決定に関しても職員の意見を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・講習会等目の付くところに掲示して参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	看取りの勉強会で発表した相互訪問・ネットワーク作りは特にしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんの出来ること・出来ないこと・要望を大切に安心できる信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に体験をして頂き要望等を確認しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め情報交換に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築けるコミュニケーション・声かけを行う。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には日常の様子・体調等の状況報告を行い家族との絆を大切に信頼関係の構築を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の機会を持てる支援を行っている。	仏壇を持ち込んで毎朝ご飯を供えるなど自宅にいた生活習慣をそのまま継続している利用者もいる。一人ひとりの生活を尊重して対応するように配慮し無理なく馴染めるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間・食堂では、仲の良い人同志が座り、会話を楽しめる様に配慮している。又孤立しない声掛けも心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者さんの面会や、逝去した後も家族の方が来所され相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人のペースを大切にして本人らしく生活できるように支援している。思いや暮らし方の希望の把握に努めている。	日々の関わりの中で個々の行動、表情等から意向や思いを把握している。言葉で表現出来ない利用者に対しても行動や表情から思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を把握しホームでの生活に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定・出来事・気付き等を記録し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすために必要なアイデア・意見・問題を話し合い介護計画に反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員の情報や記録を通して本人や家族の意向を取り入れ、その人らしい暮らしを支える為の具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな変化を見落とさず個別に記録しミーティングでの意見を反映し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて適切な対応ができるよう柔軟に支援をしている。パワーリハビリに通う方もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と急変時の報告により利用者・家族の安心感と適切な医療の支援をしている。	日々の関わりの中で気付きや家族の申し出からかかりつけの病院に連れて行くなど納得が得られるようにしている。月に2回の応診があり、医師とは何でもやり取りの出来る信頼関係を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護師であり、適切な指示を受け、個々に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに積極的に取り組んでおり本人・家族・病院・ホームで方針を共有している。本人らしく尊厳をもって最期まで看取れるように支援している。	入居時に看取りに関する指針等により利用者、家族に説明し同意を得ている。今年度は4人の看取りの事例もあり利用者、家族の希望に応じて医師、看護師と連携し安心して納得した最期を迎えられるよう支援していく体制が整っている。	4名の方の看取りを実践され、稀有な体験を日頃から更にレベルアップ進化させてほしい。体験をベースにして施設全体の取り組み方に良い影響が期待できる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応はどうすべきなのか話し合いが持たれている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の講習会に参加し担架の作成方法等を伝授している。職員は避難誘導方法を身につけている。	消防署の協力で年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。スプリンクラーも設置している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを守り、誇りを傷つけない様に対応している。	職員は利用者の尊厳について常に利用者の立場に立ってケアを心掛け、誇りやプライバシーを損ねない対応をし、お互いに注意し合い取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を自由に話せる人間関係を構築し、自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず1人ひとりのペースを大切に楽しく過ごせるよう希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者が多いので外出時等好みの洋服を選んでもらい身だしなみ・おしゃれに配慮している。定期的に整髪支援をしている。		

ケアサポート・ワンズホーム 1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状況に合わせて麺類・パン等、嫌いな人には他の食品で配慮をしている。調理の下ごしらえ・盛り付け・片づけ・茶碗洗い・拭き等を一緒に行っている。	利用者と相談しながら献立を立て、栄養士からの指導を受けながら能力に応じて盛り付けや後片付けを職員と一諸にしている。職員も利用者と同じ物を食べ、和やかな雰囲気作りに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた量、食の形態(お粥・刻み・ほぐし等)を考慮しながら支援している。ターミナルの近づいた利用者さんには水分チェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状況に合わせて口腔ケアに取り組んでいる。嚥下・口腔ケアの講習に多くの職員が参加し学んでおり実践に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の排泄パターンに合わせて声掛け・誘導・トイレでの排泄を促し、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄するよう声をかけ誘導している。個々の状態に応じた排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し、センナ茶・整腸剤・下剤の調整を行い便秘予防に配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望通りには出来ないが無理強いはいしない様にしている。	利用者の体調や希望を考慮しながら週2回入浴している。入浴拒否の利用者にはタイミングを見ながら声をかけるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを大切に休息・お昼寝等を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を把握し誤薬の無い様職員管理で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏場はドライブ等で気分転換を図っている。月1回書道の先生が来所され、希望者による習字教室があり作品は食堂に掲示している。		

ケアサポート・ワンズホーム 1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・外食・催し物等外出し、思い出作りを支援している(写真撮影)。同じ利用者さんばかりにならない配慮にも心掛けている。	利用者の声を聞いて健康状態を見ながら外出している。年に1回は利用者全員で地元の温泉に行き、芝居を観たり利用者に合う美味しい弁当を食べ宴会を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、買い物でお金を使う楽しみを持つ様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話配線があり、電話を付けている方もいる。贈物のお礼等の手紙を書ける方は書いて頂き投函している。年賀状での交流もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感・季節感を感じられる様(お雛さん・クリスマスツリー等)レイアウトをし心地よく過ごせるように工夫している。脱衣所には温度差に配慮し電気ストーブを設置している。	玄関から居間まではバリアフリーになっており、居間、食堂はワンフロアで、壁には利用者の書道や絵などの作品が張られ、ゆったりとした居間のソファでテレビを楽しむなど心安らぐ空間となっている。トイレや浴室も広く使いやすく清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファでTVを見たり気の合う仲間と会話を楽しむスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していたなじみの家具(箆筒)・TV・冷蔵庫等があり過ごしやすいうに気配りしている。	居室には利用者の好みや馴染みの物を持ち込み落ち着く空間になっている。家族が利用者と同室で宿泊できる寝具も用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、エレベータが設置されている。生活空間に手すりも設置されている。		